

「介護保険制度における居宅サービス（介護予防サービス、地域支援事業含む）の利用者および利用者の家族等に対する実態調査」

（利用者本人調査）

報告書【概要版】

一般財団法人 長寿社会開発センター

1. 背景と目的

介護保険制度は、制度創設以来23年を経過し、利用者の生活を支える上でなくてはならないものとして定着・発展している。

令和3年度介護保険事業状況報告（年報）によると、要介護（要支援）認定者数は、令和3年度末現在で690万人となっており、うち、第1号被保険者は677万人（男性211万人、女性465万人）、第2号被保険者は13万人（男性7万人、女性6万人）となっている。

なお、要介護（要支援）認定者数のうち、居宅介護（介護予防）サービス受給者数は、1か月あたり平均で見ると、総数で405万となっており、約6割の方が居宅サービスを利用しながら在宅で生活していることが推察される。

今回、介護保険制度における居宅サービス（介護予防サービス、地域支援事業含む）を利用している「利用者本人」を対象に、介護保険制度および居宅サービス（介護予防サービス、地域支援事業含む）に関して負担感や充足感、要望などについての実態を把握することで、介護保険制度や居宅サービス（介護予防サービス、地域支援事業含む）のさらなる向上の一助となることを目的に調査を行った。

2. 実施方法等

1) 調査対象

以下の全てに該当する者。

- ・ 調査実施期間中に調査会社に登録している要介護（要支援）認定を受けている者。
- ・ 自宅で生活している者の内、介護保険制度における居宅サービス（介護予防サービス、地域支援事業含む）を利用している者。
- ・ 本調査に関し、調査協力者自身の同意が得られる者。
- ・ 回答後の同意の撤回は難しいことにも承諾いただける者。

2) 調査方法

- ・ Web会社に登録している調査対象者を対象に、Web調査で実施。
- ・ 調査期間は、令和5（2023）年9月12日～9月19日
- ・ 有効回答数323件（回収数327件）

3. 調査結果（総括）

○ 年齢・要介護度

回答者の年齢は、「70代」（26.6%）が多く、次いで「60代」（26.0%）、「50代」（21.7%）であった。「50～70代」で約7割を占めていた。

回答者の要介護度は、「要支援1」「要支援2」で約5割を占めていた。[設問2～3]

○ 居住状況・性別

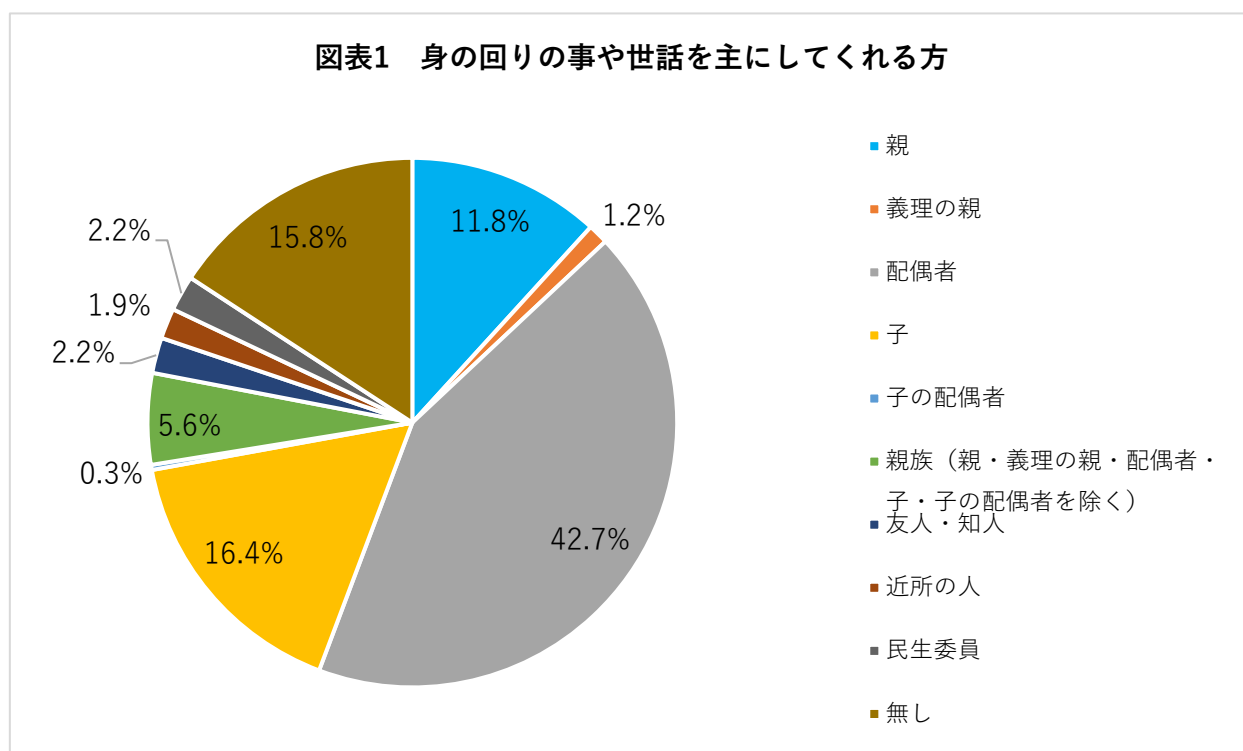
回答者の居住状況は、「配偶者だけと同居」（35.0%）が多く、次いで「単身」（31.0%）、「独身の子と同居」（15.8%）であった。配偶者もしくは子等と「同居」している者が約6割を占めている。

回答者の性別については「男性」が約8割であった。[設問4～5]

○ 身の回りの事や世話を主にしてくれる方

身の回りのことや世話を主にしてくれる方については、「配偶者」（42.7%）が多く、次いで「子」（16.4%）、「無し」（15.8%）であった。

なお、その方との関係性については「とても良好」「良好」が95.9%であった。[設問7～8]



○ **地域包括支援センターの認知度**

地域包括支援センターの認知度については、「知っている」が80.5%であった。
[設問9]

○ 「地域包括支援センター」または「役所」に介護に関する相談の有無等

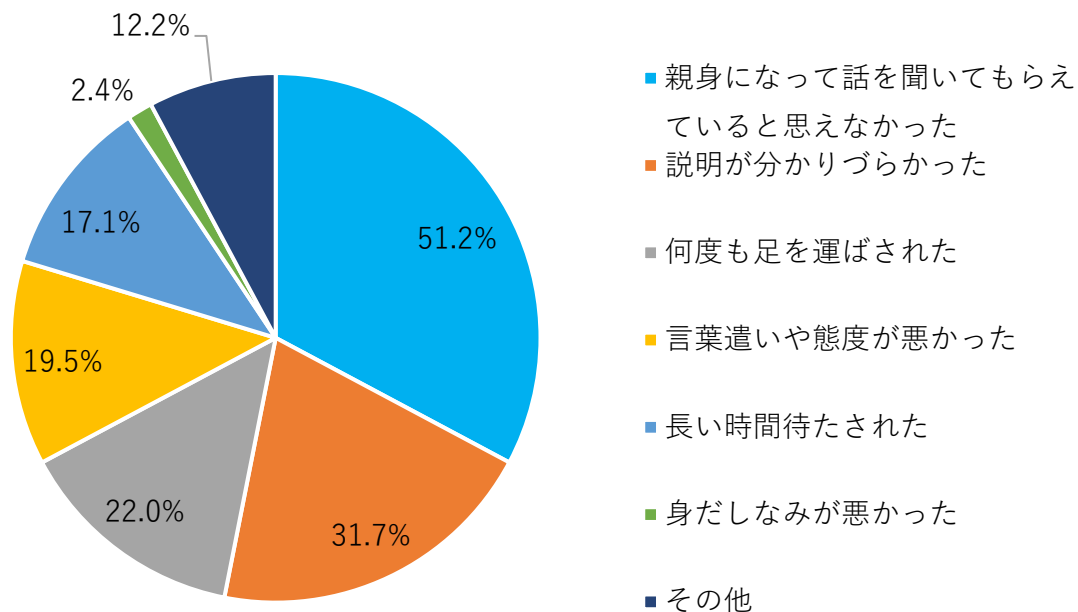
地域包括支援センターまたは役所に介護に関する相談を行った事が「ある」が64.1%であった。相談時の満足度は、「ほぼ満足」「満足」が80.2%、「やや不満」「不満」が19.8%であった。

なお、「やや不満」「不満」の理由としては、「親身になって話を聞いてもらえていると思えなかった」(51.2%)が多く、次いで「説明が分かりづらかった」(31.7%)、「何度も足を運ばされた」(22.0%)であった。[設問10~12]

図表2 相談時の満足度

	N	%
満足	62	30.0%
ほぼ満足	104	50.2%
やや不満	29	14.0%
不満	12	5.8%
合計	207	100.0%

図表3 「やや不満」「不満」と回答した理由



○ 担当ケアマネジャーに対する満足度

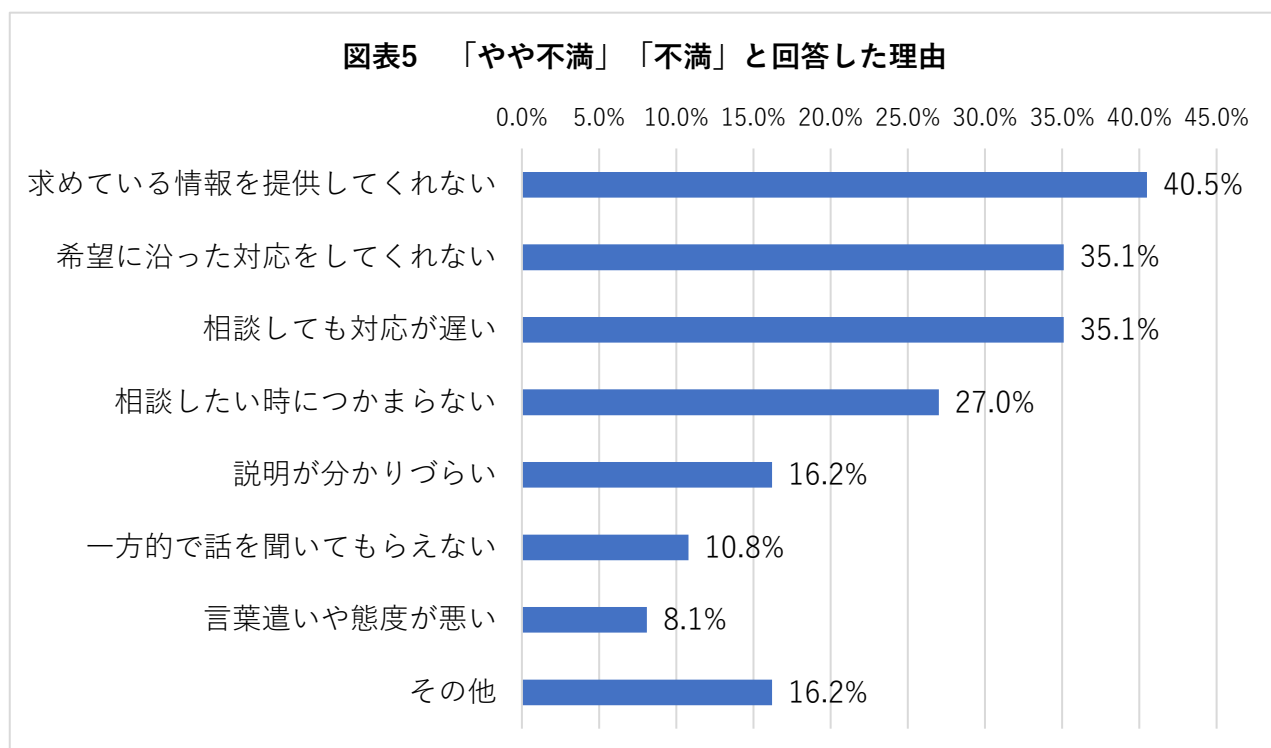
担当ケアマネジャーの満足度は、「ほぼ満足」「満足」が88.5%、「やや不満」「不満」が11.4%であった。

なお、「やや不満」「不満」の理由としては「求めている情報を提供してくれない」(40.5%)が多く、次いで「希望に沿った対応をしてくれない」と「相談しても対応が遅い」が35.1%であった。〔設問17～18〕

図表4 担当ケアマネジャーに対する満足度

	N	%
満足	128	39.6%
ほぼ満足	158	48.9%
やや不満	25	7.7%
不満	12	3.7%
合計	323	100.0%

図表5 「やや不満」「不満」と回答した理由



○ **利用したいと思っても利用できなかった、もっと利用したかったと思った居宅サービスの有無等**

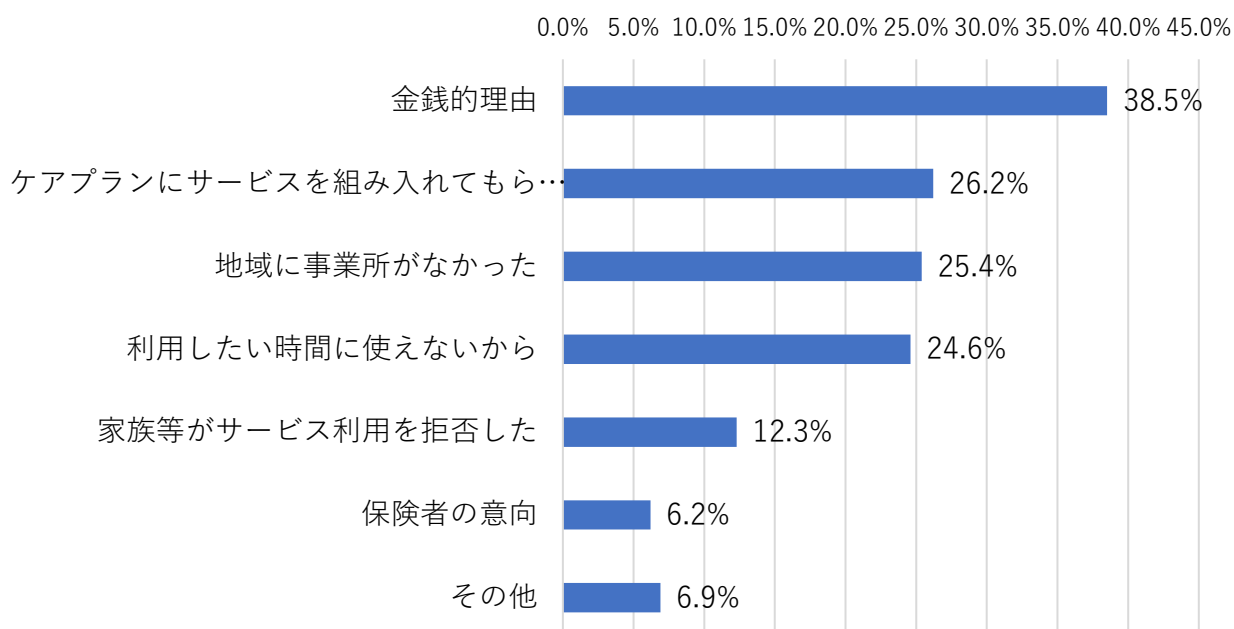
利用できなかった、もっと利用したかったと思った居宅サービスの有無については、「ある」が40.2%であった。

なお、「ある」と回答した方の内、利用に至らなかった理由については「金銭的理由」（38.5%）が多く、次いで「ケアプランにサービスを組み入れてもらえなかった」（26.2%）、「地域に事業所がなかった」（25.4%）、「利用したい時間に使えないから」（24.6%）であった。〔設問20～21〕

図表6 利用できなかった、もっと利用したかったと思った居宅サービス（介護予防サービス、地域支援事業含む）の有無

	N	%
ある	130	40.2%
ない	193	59.8%
合計	323	100.0%

図表7 利用に至らなかった理由



○ 今後、生活を送りたい場所

今後、生活を送りたい場所は、「今いる自宅で生活を続けていきたい」が79.6%、次いで「ケアハウスや高齢者住宅などで生活したい」が9.0%であった。〔設問22〕

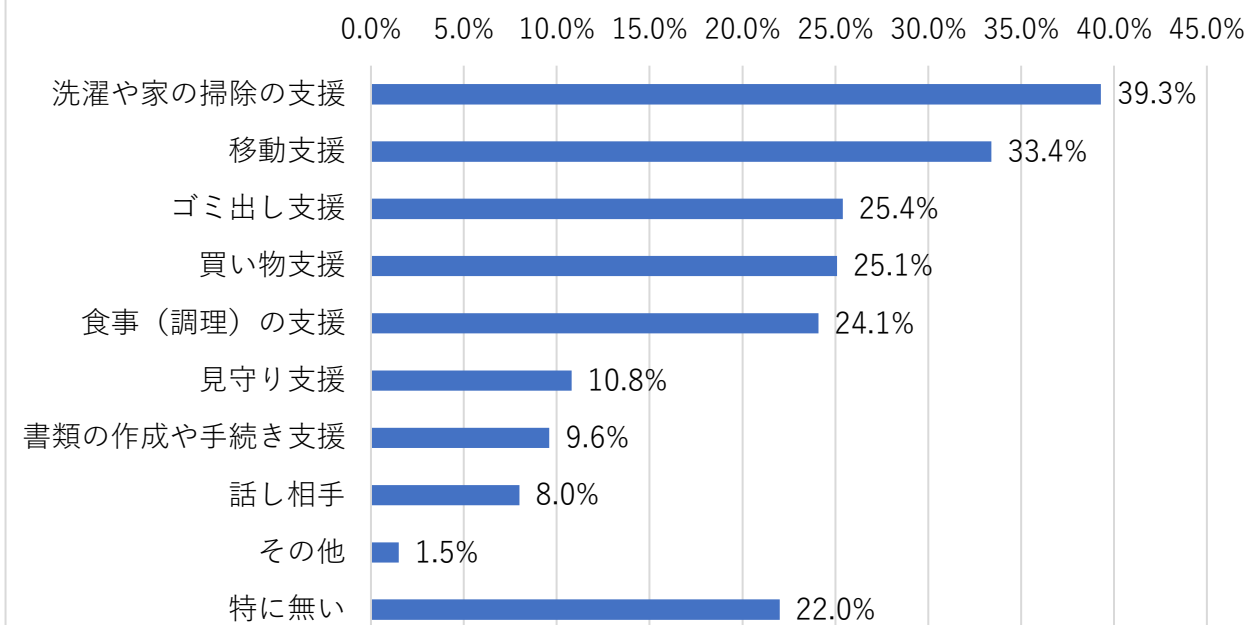
図表8 今後、生活を送りたい場所

	N	%
今いる自宅で生活を続けていきたい	257	79.6%
ケアハウスや高齢者住宅などで生活したい	29	9.0%
わからない	21	6.5%
特別養護老人ホームなどの施設で生活したい	16	5.0%
合計	323	100.0%

○ 在宅生活を継続するうえで日常的に受けたいと思う支援

在宅生活を継続するうえで日常的に受けたいと思う支援は、「洗濯や家の掃除の支援」(39.3%)が多く、次いで「移動支援」(33.4%)、「ゴミ出し支援」(25.4%)、「買い物支援」(25.1%)、「食事(調理)の支援」(24.1%)であった。〔設問24〕

図表9 在宅生活を継続するうえで日常的に受けたいと思う支援



○ 介護保険料の負担感

介護保険料の負担感を「やや大きい・大きい」、「普通」、「やや小さい・小さい」の3類型に着目してみると、「やや大きい・大きい」が40.3%、次いで「普通」が38.4%であった。

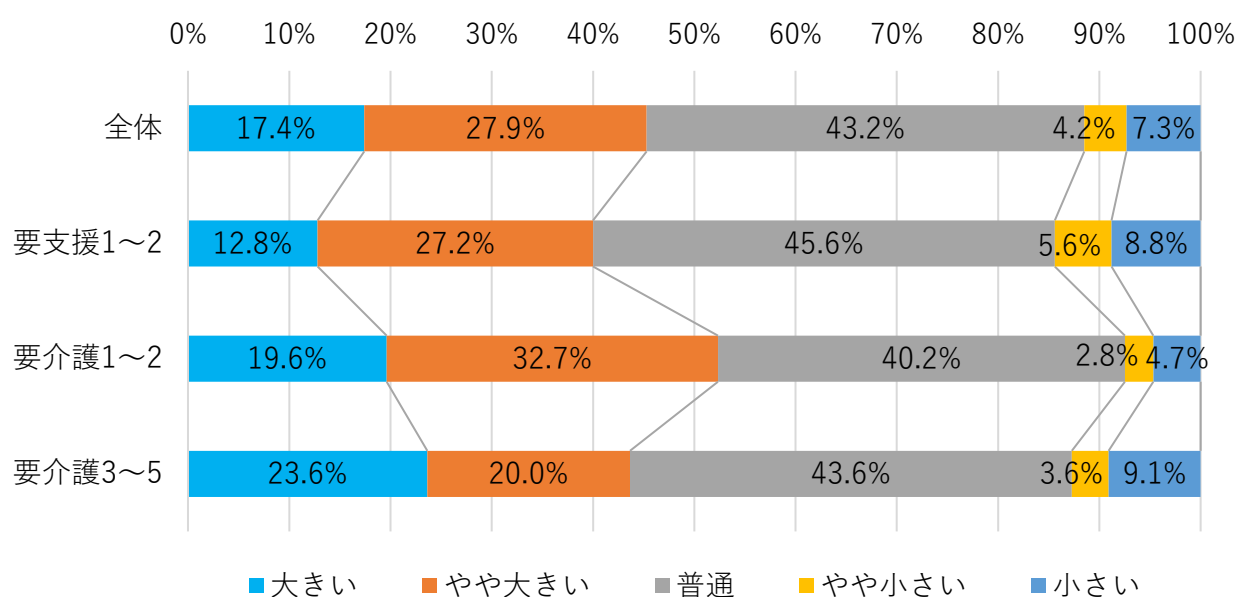
なお、介護保険料の負担感を要介護度別でみると、いずれの要介護度においても「普通」が40%以上を占めていた。

「要介護1～2」については「やや大きい・大きい」が52.3%を占め、他の要介護度と比べ割合が大きかった。 [設問25]

図表10 介護保険料の負担感

	N	%
大きい	50	15.5%
やや大きい	80	24.8%
普通	124	38.4%
やや小さい	12	3.7%
小さい	21	6.5%
わからない	36	11.1%
合計	323	100.0%

図表11 Q3「要介護度」×Q25「介護保険料の負担感」(N=287) ※Q25「介護保険料の負担感」の選択肢「わからない」のN36は除く



○ 居宅サービスの利用料金の負担感

利用料金の負担感を「やや大きい・大きい」、「普通」、「やや小さい・小さい」の3類型に着目してみると、「普通」が42.4%、次いで「やや大きい・大きい」が38.1%であった。

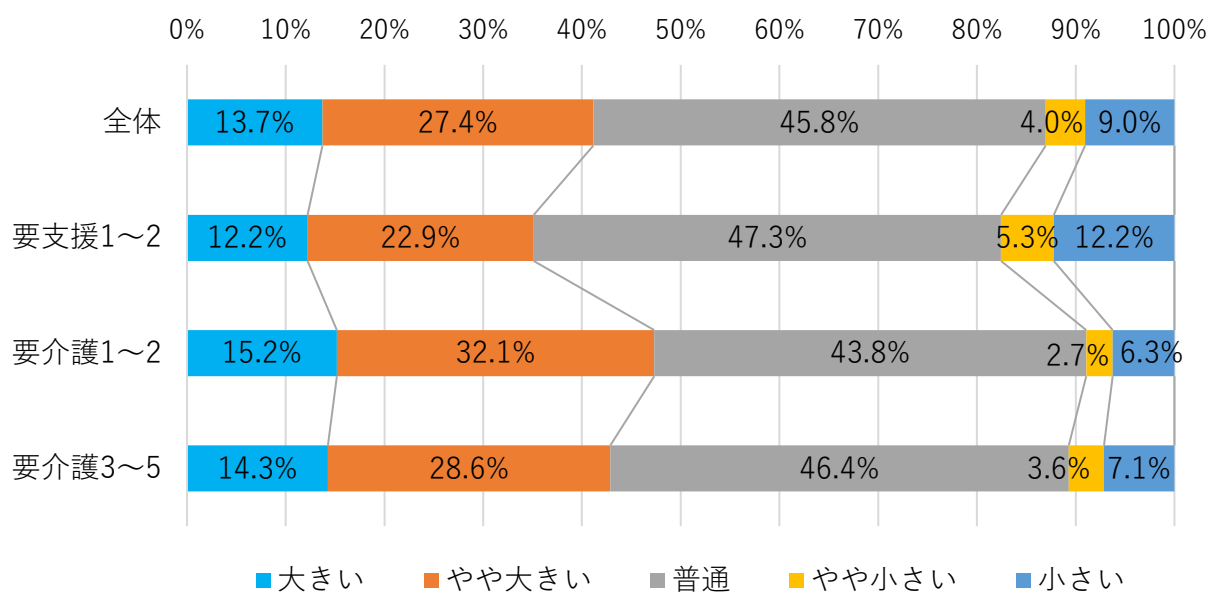
なお、利用料金の負担感を要介護度別でみると、いずれの要介護度においても「普通」が40%以上を占めていた。

「要介護1～2」については「やや大きい・大きい」が47.3%を占め、他の要介護度と比べ割合が大きかった。 [設問26]

図表12 居宅サービスの利用料金の負担感

	N	%
大きい	41	12.7%
やや大きい	82	25.4%
普通	<u>137</u>	<u>42.4%</u>
やや小さい	12	3.7%
小さい	27	8.4%
わからない	24	7.4%
合計	323	100.0%

図表13 Q3「要介護度」×Q26「利用料金の負担感」(N=299) ※Q26「利用料金の負担感」の選択肢「わからない」のN24は除く



○ 居宅サービスの充足感

サービスの充足感を「まあまあ足りている・十分足りている」、「過不足はない」、「やや不足している・とても不足している」の3類型に着目してみると、「まあまあ足りている・十分足りている」が67.8%、次いで「過不足はない」が20.4%であった。

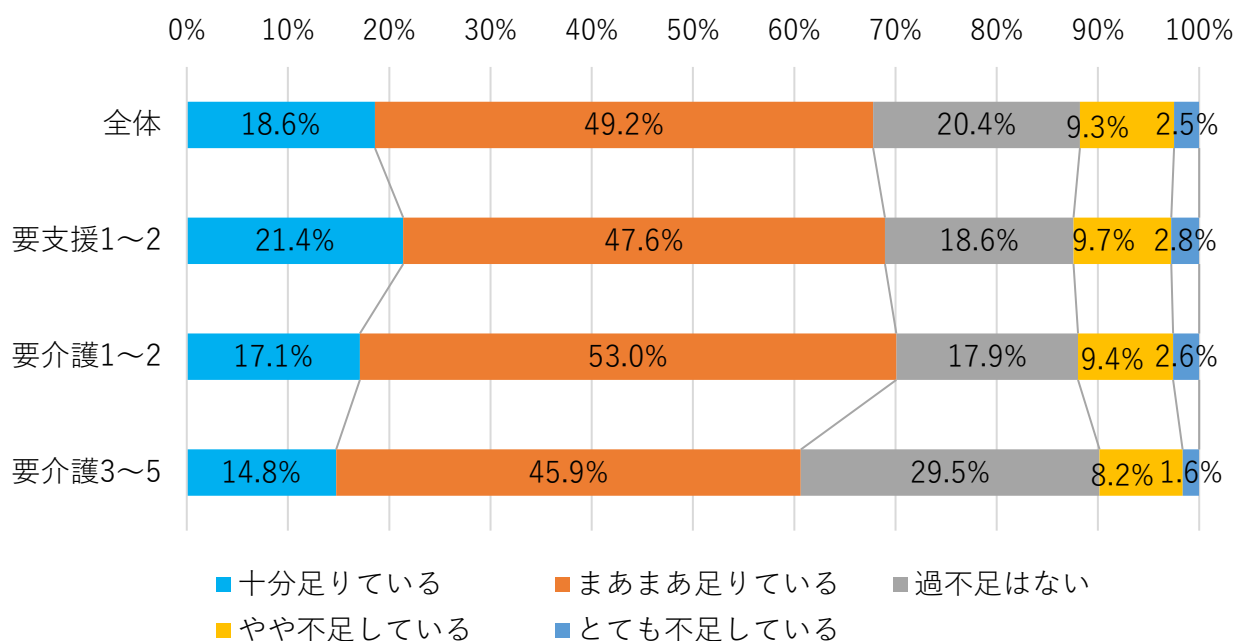
なお、サービスの充足感を要介護度別でみると、いずれの要介護度においても「まあまあ足りている・十分足りている」が60%以上で占める割合が大きかった。

「要介護3～5」については「まあまあ足りている・十分足りている」の割合は60.7%で他の要介護度に比べると約9ポイント低い傾向であった。〔設問27〕

図表14 居宅サービスの充足感

	N	%
十分足りている	60	18.6%
まあまあ足りている	159	49.2%
過不足はない	66	20.4%
やや不足している	30	9.3%
とても不足している	8	2.5%
合計	323	100.0%

図表15 Q3「要介護度」×Q27「サービスの充足感」(N=323)



○ 居宅サービスの利用のしやすさ

利用のしやすさを「まあまあ利用しやすい・利用しやすい」、「普通」、「やや利用しにくい・利用しにくい」の3類型に着目してみると、「まあまあ利用しやすい・利用しやすい」が69.3%、次いで「普通」が22.0%であった。利用しやすいと感じている方が約7割であった。〔設問28〕

図表16 居宅サービスの利用のしやすさ

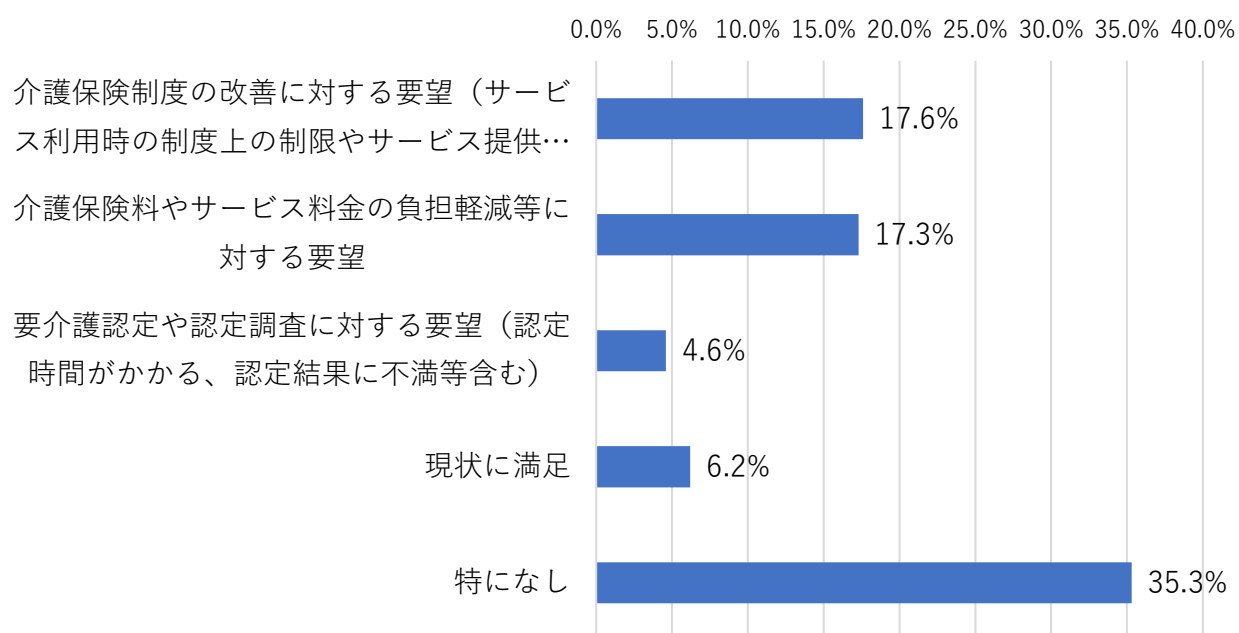
	N	%
利用しやすい	94	29.1%
まあまあ利用しやすい	<u>130</u>	<u>40.2%</u>
普通	71	22.0%
やや利用しにくい	23	7.1%
利用しにくい	5	1.5%
合計	323	100.0%

○ 介護保険制度に対する要望

介護保険制度に対する要望（自由記述）を類型化してみると、「介護保険制度の改善に対する要望（サービス利用時の制度上の制限やサービス提供内容、サービス量・質の充実等含む）」が17.6%、次いで「介護保険料やサービス料金の負担軽減等に対する要望」が17.3%、「要介護認定や認定調査に対する要望（認定時間がかかる、認定結果に不満等含む）」が4.6%であった。

なお、「現状に満足」の回答も6.2%みられた。〔設問29〕

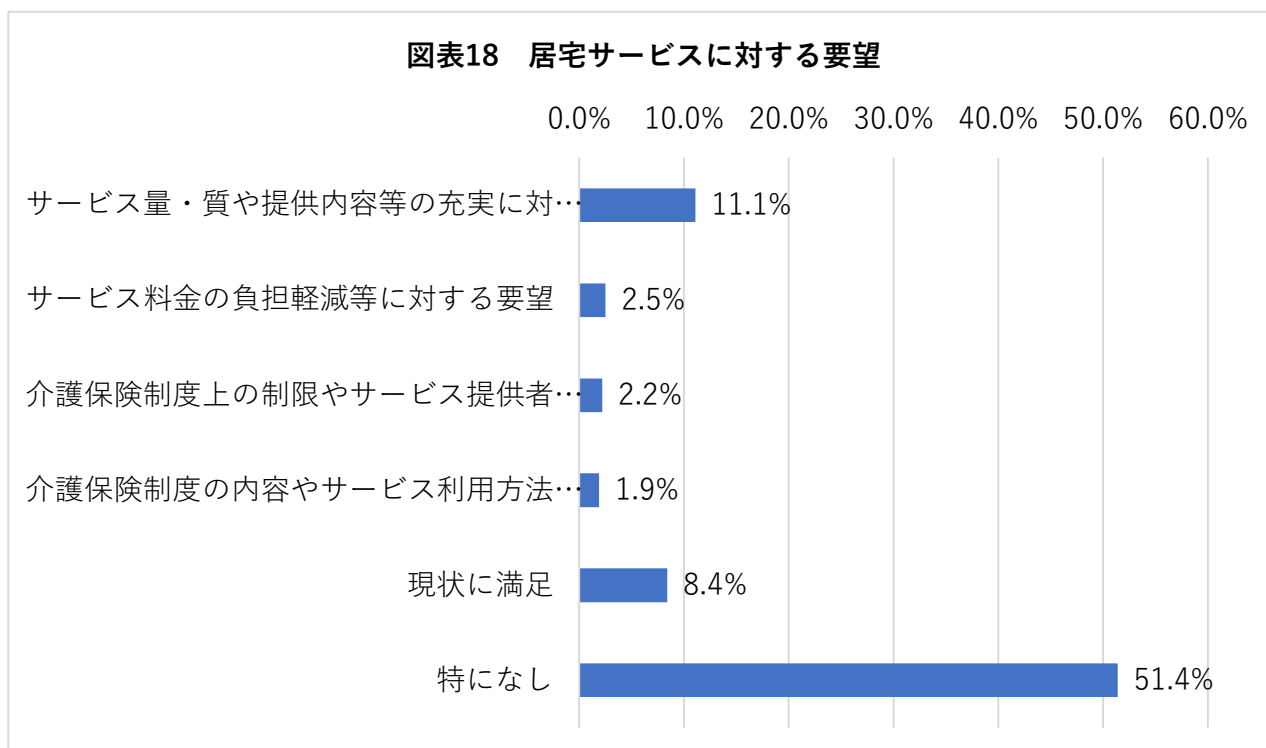
図表17 介護保険制度に対する要望



○ 居宅サービスに対する要望

居宅サービス（介護予防サービス、地域支援事業含む）に対する要望（自由記述）を類型化してみると、「サービス量・質や提供内容等の充実に対する要望（利用時間や回数を増やしてほしい、新たなサービスがほしい等）」が11.1%、次いで「サービス料金の負担軽減等に対する要望」が2.5%、「介護保険制度上の制限やサービス提供者側の制限等に対する要望」が2.2%であった。

なお、「現状に満足」の回答も8.4%みられた。〔設問30〕



4. 参考

本概要版とあわせて、報告書（本編：55頁）をご確認ください。

URL

<https://nenrin.or.jp/research/research.html>

QRコード



令和6（2024）年3月発行

発行 一般財団法人 長寿社会開発センター

〒105-8446 東京都港区西新橋3-3-1 KDX西新橋ビル6階

TEL：03-5470-6751 FAX：03-5470-6762

不許複製